

## 【宮内庁元庭園課長がご案内する～皇居東御苑の「歴史と初秋の散策」～】 のご報告

NPO 風土-kazetsuchi-

- 日時：平成 23 年 10 月 1 日(土) 10 時 30 分～15 時 00 分
- 場所：皇居東御苑
- 参加者：9 名（講師・スタッフ 2 名含む）
- ねらい：皇居東御苑で、自然と歴史を題材として解説することにより、参加者がそれぞれに住んでいる地域の環境に興味を持ち、自然や歴史等、さまざまな問題に対して、「つながり」という視点から見るきっかけを提供することを目指す。
- 講師：大崎清見氏（宮内庁元庭園課長）



### 【概要】

#### ①自己紹介

探勝の中で、参加者同士が楽しく話ができるような雰囲気をつくるため、それぞれに「名前」と「どこから来たのか」等について話をしてもらった。ご夫婦、友人同士での参加等、少人数であったためアットホームで和やかな雰囲気の中で自己紹介を行うことができた。

#### ②講師紹介

講師の経歴等について紹介した後、講師に自己紹介をしてもらった。

#### ③探勝

案内板を見ながら散策コースを確認した後、約 4 時間をかけて、皇居東御苑を探勝した。少し雲りがちの天気ではあったが、散策するにはちょうど良いくらいの天気で気持ちが良いとの感想をいただいた。また、時期的に秋の七草の慎ましい花々や、赤色と珍しい白色の花を咲かせた彼岸花、また池の水面に咲くアサザの花等を見ることが出来、初秋の皇居を堪能できた。



今回は参加者が少なかったため、アットホームな雰囲気ができ、参加者からもたくさんの

質問を受けることができた。講師の解説も通常の探勝会より充実したものとなった。参加者は、濃密で楽しい時間を過ごすことができていたようだった。

皇居ができるまでの歴史の話や皇居に生息する動植物に関する話の他、宮内庁庭園課長時代に設計に携わった皇居の森づくりの秘話や、昭和天皇に関する話をしていただいた。

また今回は、講師オリジナルのテキストの他に、東御苑で配布している有償と無償両方のパンフレット等も配布し、より皇居や東御苑への理解が深まるよう配慮していただいた。

熱心な参加者はメモをとったり、質問をしたりするなど、とても充実した時間を過ごすことができた。以下、エピソードを簡単に紹介する。

#### 【お濠について】

8つの濠の中に生息する魚類のうち、ブルーギル（外来魚）の割合が平均して8割程度を占めているという話もあった。

また、お濠の一か所では、ホタルが生息しているとのこと。



#### 【大手門】

3月11日の東日本大震災の影響で、大手門の壁の一部が崩れていた。探勝会の時点でも、壁は崩れたままであった。



#### 【江戸城の石垣について】

江戸城の石垣の大部分は、小松石（安山岩）で、真鶴町旧岩村の小松山に由来している。白く見えている石は、小豆島石（御影石）である。石積の工法も時代によって異なっている。

また良く見ると、石垣の一部に鑿で削った跡が見られる。

#### 【武蔵野林について】

自然保護を考え、武蔵野の自然をよみがえらせたいと、昭和天皇のご意向により、雑木林が造成されたとのこと。講師の大崎清見氏が宮内庁庭園課長時代に武蔵野林の設計を行い、造成に携わった。昭和天皇も造成途中で武蔵野林を視察なされたとのこと。



**【参加者の感想（感想文から一部を抜粋）】**

- 様々な自然の木々の中での散歩、そして歴史にふれられて貴重な経験となった。
- 皇居の歴史が興味深く、勉強になった。
- 都会の中の自然に改めて気づき、良い経験となった。
- 少人数だったので、先生や参加者の皆さんとたくさん会話が出来て楽しかった。
- お濠の中まで外来種問題があるとは知らなかった。
- 雑木林設計に関するエピソードがとても興味深かった。東京の真ん中にあるまとまったみどりは、とても貴重ですばらしい。
- 天気も良く、とても楽しい一日を過ごすことが出来た。

